

令和7年度第1回教育課程編成委員会 議事録

【日時】 令和7年7月11日（金） 10：00～10：45
【場所】 こころ医療福祉専門学校壱岐校
【委員】 壱岐市社会福祉協議会 会長 安川 哲子 様
【委員】 壱岐市立老人ホーム 所長 米倉 慶三 様
【委員】 特別養護老人ホームハッピーヒルズ 施設長 永田 信弘 様
【委員】 こころ医療福祉専門学校壱岐校 校長 後藤 久志
こころ医療福祉専門学校壱岐校教育部 野田比呂恵
【事務局】 こころ医療福祉専門学校壱岐校学生部 村上 健太

議 題

- (1) 教育方針等について
- (2) 令和7年度重点目標
- (3) 介護福祉科の教育方針
- (4) 令和6年度経過報告と令和7年度行事予定
- (5) 教育課程編成について
- (6) 在籍学生数
- (7) 所属職員

内 容

- (1) 教育方針等について
配付資料に基づき、こころ医療福祉専門学校壱岐校教育理念について確認。
- (校長) 今年度より新たに掲げられた「地域のすべての産業と高齢化社会を包括的に支援する」というビジョンの具現化のために、グループの教育機関の役割として、本校卒業後にそれぞれの就職現場で即戦力として働ける介護人材を送り出せるように指導を行っています。日本人学生はほぼ全員が地元の施設に就職しますので、壱岐市における介護人材の確保に貢献できるように人材の育成に努めています。今までに7期生までの126名を送り出し、多くの介護施設に就職させています。本校の就職率は創立以来100パーセントとなっています。本校の卒業生が地道に頑張ってくれていることで、本校に対する市民の評価が毎年高まってきているように実感しています。しかし、市内の中学校や高校の生徒数の激減に憂慮しています。また、介護職を目指そうという者が少なくなっていることも強く感じます。将来的な介護職の人材不足については社会的にも問題になっていますので、介護職を目指そうと思っている者には、是非本校でしっかり学び、壱岐市内の介護人材確保の一助になるように努力していきたいと思います。
- (委員) 介護人材確保連絡協議会にも小学生を対象とした介護職への関心を高める活動だけではなく、将来の就職先を見据えて進路選択をして

いる中学生や高校生にしっかり焦点を合わせて介護職確保についての活動を行ってほしいと感じます。

(校長) そのことについては私も会議のたびにお願いしているところです。話は変わりますが、学生にとっては、施設や学校内での実習など体験的な情報は、非常に頭にも入りやすいと思います。学習したことを体で覚えることは大変大切であると思います。本校に入学した目的を達成するために、学んだ知識や技能を十分現場で発揮できるよう育成していきたいと思います。ここ数年は学生も多く、外国人と日本人を合わせて30名以上の学生が在籍しています。学校内に併設する寮はほぼ満室の状態です。高校生が減少する中、日本人学生の中には、一度島外の学校に進学したり就職したりした者で、帰ってきてから再度本校で学び直したいという者が毎年数名おられます。一度島外へ出て地元のありがたさを再認識するのも一つの経験かもしれませんが金銭面でのリスクは大きいです。帰ってきて勉強している学生は、戻ってきて良かったと言っている者が多いので親元を離れいったん島外に出ることで、地元のありがたさに気づくのだと思います。

(委員) 実習に来た学生のみではなく指導する指導員もしっかりとした指導目標を持って実習にも取り組むことや指導力を付けさせるように努力をしています。卒業後、自分の施設で採用するという視点で考えれば学校と施設の連携はとても大切だと感じています。

(2) 令和7年度重点目標

(校長) 学生への指導力や授業力を高めることは教師としての使命です。専門性はスキルアップするものですから、常に向上心をもって指導に当たってもらっています。実際よく勉強もされています。国家試験においては日本人学生全員合格だけでなく多くの留学生の合格を目指します。留学生も意欲的に取り組んだ結果、昨年は今まで最高の5名の留學生が合格しました。今年度はそれを上回る成績を目指して頑張っています。本校の卒業生は、2年間介護の勉強を行っており、施設でも重宝されています。学生募集に関しては、日本人10名、外国人15名の25名を目標にしています。年々市内の高校生は減少していますので、今後は留学生が多くなると思いますが、実習先やアルバイト先の確保をしっかりしていきます。いろいろな感染症については、徹底した予防対策を行っておりますし学生も徹底してくれているので現在は落ち着いています。

(学科長) 留学生の国家試験合格率については、日本語能力の高さと比例しているように感じます。昨年の留学生は全体的にはそこまで日本語能力が高い方ではありませんでしたが、合格した学生たちは、国家試験対策に併せて日本語の勉強もかなり頑張ったと思います。今の1年生2年生はかなり日本語能力が高いので、国家試験の合格率が高くなるのではないかと期待しています。留学生がより多く合格でき

るように国家試験対策にもしっかりと力を入れて指導していきます。

また、次年度より国家試験の受験方法が変わります。まずは総得点で合格判断されますが、得点が3パートに分けて採点されるために、合格したパートは2年間有効となります。不合格した者で再受験する際には不合格のパートを受ければよいという流れになるようです。

(委員) 国家試験に関しては、施設で働いている卒業生で現役中に合格できなかったものも国家試験合格していて喜んでいきます。新しいシステムになるようですが、できれば、全員が卒業時に合格して就職できるように勉強を頑張ってもらいたい。感染症については、大変ではありますが、職場の関係上これから先もあらゆる予防対策を行った上で業務に当たらなければならないと思います。

(3) 介護福祉科の教育方針

(学科長) 本校の指導は、学園の理念を大切にしながら、「倫理観」や「こころ」をしっかり育てることを前面に出しています。身に付けた技能や知識を使う上でとても大切なことだからです。介護施設でも色々な分野でAIの活用が進んでいますが、どうしても人間にしかできないところがあると思いますし、介護職は特にそういった面が多いのではないかと思います。

(4) 令和6年度経過報告と令和7年度行事予定

(校長) 新型コロナウイルス感染症が5類となり、昨年度より入学式や卒業式に来賓や保護者の出席を制限することなく行えるようになりました。会場もつばさに移して行うことができ、学生達も喜んでいました。宣伝活動としまして、オープンキャンパスや情報発信としてのホームページの更新を充実させ、中学校の進路説明会にも参加させてもらっています。昨年度は日本人学生の入学者は社会人1名でしたが、広報活動の甲斐があって現時点で、7名が入学予定となっています。

(委員) 高校生が毎年少なくなっているのが厳しいとは思いますが、学校に来てもらう機会も多くなれば知名度も上がり、興味を持ってもらえるのではないかと思います。壱岐市内の介護人材確保のためにも是非頑張ってもらいたいと思います。

(5) 教育課程について

(学科長) 令和3年度から「人間関係とコミュニケーション」のカリキュラム変更が行われ、30時間から60時間へ変更されております。本校は朝と夕方に分けてアルバイトをしているため、これ以上の教科の増加は考えていませんが、既定の時間数は十分に確保しています。国家試験については、受験方法等の変更にも対応できるようにしています。国家試験に向けた模擬試験も行っています。また、今の1、

2年生は留学生の日本語能力が高いので、多くの合格者が出るように指導したいと思います。留学生は長期的に日本での生活を希望していますので、日本の文化やルールの理解、社会人としてのマナーをしっかりと身に付けさせます。

- (委 員) 施設での学習が国家試験に役立てばと思い、意識して指導をさせています。実際に体感することで、国家試験に役立ててほしい。
留学生のことを職員も理解し、ミーティングの際は書類にふりがなを記載するなど配慮もしています。介助等の在学中に行った実習のおかげで職場でもスムーズに業務が行えていると思います。
留学生については職員との意思疎通がなかなか難しい面がありますが、双方が理解できるように話し合いを行っています。コミュニケーションに関しても、学校での勉強が現場で活かされていると感じています。

(6) 在籍学生数

- (学生部) 今年度は19名の学生が入学しておりますが、1、2年生ともに日本語能力は今までで一番高いのではないかと思います。昨年度の入学生は12名でしたが、進路変更や退学した学生はおりません。現在、2年生は日本人学生5名、留学生7名、1年生は日本人学生1名、留学生18名の合計31名の学生が在籍しています。私たちは壱岐に来ての2年間はしっかり勉強に集中できるように学習は勿論、あらゆる指導を行っています。

(7) 所属職員

- (校 長) 年度当初と職員構成が変わりまして、現在表に示したようになっていきます。昨年度は点字については、島内での講師の確保が難しく、福岡からリモート授業をお願いしておりましたが、今年度からは来校していただけるようになりましたので、すべての授業を対面で行うように計画しています。

- (委 員) 会議もそうですが、対面での授業は理解度が高くなり、効果も大きいと思います。

(8) その他

- (学生部) 留学生については、長期日本での生活を希望している者が多数ですので、日本で生活する上での基本的な習慣や常識を徹底して指導しています。母国の生活とは異なることやギャップも多々あるようですが、日本で生活する以上は、日本のルールに従って欲しいと思っていますので厳しめに指導を行っているところです。今の留学生は日本語能力が高く、こちらの話をうなずきながら聞いてくれるので、今まで以上に話した内容の理解ができていると思います。寮内の清

掃も比較的によくできていると思います。

(学科長) 実習の時間は長く、座学と現場ではそれぞれ違いがあります。この点だけは指導してほしいというような気付きがありましたら、ご指導いただきたいと思います。

(委員) 専門的な知識をしっかり学習して施設に就職してくることは大きなメリットとなっている。介護の仕事も移り変わりが年々早くなっているので、若い者がしっかり勉強してくれるのはどの施設にとっても大変ありがたいことである。専門学校卒業生には、年々難しくなっているが5年後にはケアマネジャーの資格を取ってほしい。今後も新しいことに対する対応がスピーディーにできるように、学校と施設が共に連携を密にして、壱岐市の介護職の確保とスキルアップが図れるようにお互いに協力できればと考えている。

(事務局) 本日いただきました貴重な意見は今後の教育課程の編成や壱岐校の学校運営に活かして、壱岐市の介護職員確保に繋がるようさらに努力してまいります。令和7年度第1回教育課程編成委員会を終了いたします。